

安全のために必ずお守りください。

警告

“メンテナンスの頻度は、ライディングの状況により異なります。チェーンを適切なチェーンクリーナーで定期的に洗浄してください。錆び落とし等のアルカリ性、あるいは酸性の洗浄液は決して使用しないでください。これらを使用するとチェーンが破損し、重傷を負う恐れがあります。”

- このチェーンは高変速性能を獲得するために表裏があり、取付けの向きを規定しています。正しい向きで取付けることで、設計性能が発揮されます。もし反対の向きで取付けた場合、チェーン外れ等の発生により突然に転倒して重傷を負うことがあります。
- 乗車前に車輪が固定されていることを確認してください。転倒して大怪我をすることがあります。
- ナロータイプチェーンは必ずアンブルタイプ・コネクティングピンで連結してください。
- アンブルタイプ・コネクティングピン以外のコネクティングピンやチェーンに適合していないアンブルタイプ・コネクティングピンおよび工具を使用すると十分な連結力が得られずチェーン切れやチェーン飛びを起こす場合があります。
- スプロケット構成の変更などでチェーンの長さを再調整する必要がある場合は、アンブルタイプ・コネクティングピンで連結されていない箇所を切断してください。アンブルタイプ・コネクティングピンで連結された箇所を切るとチェーンを損傷します。
- チェーンの伸び具合や損傷がないかどうか点検してください。伸びたり損傷があった場合には交換してください。チェーンが切れて転倒することがあります。
- 製品を取付ける際は、必ず取扱説明書等に示している指示を守ってください。その際、シモノ純正部品の使用をお勧めします。またボルトやナット等が緩んだり、破損しますと突然に転倒して重傷を負う場合があります。
- 製品を取付ける際は、必ず取扱説明書等に示している指示を守ってください。調整が正しくない場合、チェーン外れ等の発生により、突然に転倒して重傷を負う場合があります。
- 取扱説明書をよくお読みになった後、大切に保管してください。

使用上の注意

- 変速操作がスムーズに出来なくなった場合には変速機を洗浄し、作動部に注油してください。
- リンク部のガタが大きくなって変速調整が出来なくなった場合には変速機を交換してください。
- 定期的に変速機を洗浄し作動部（メカニズム部及びプリー部）に注油してください。
- 変速調整が出来ない場合には、車体の後ろエンドの平行度の確認、ケーブルの洗浄及びグリスアップとアウターケーブルが長すぎたり短かすぎたりしていないかを確認してください。
- プリーのガタが大きくなって、走行時、非常に雑音がるようになった場合は、プリーを交換してください。
- 車輪の回転が重たくなった場合はグリスアップを行ってください。
- ハブの内部には注油は行わないでください。グリスが流れ出します。
- ギアは定期的中性洗剤で洗浄し注油してください。また、チェーンの中性洗剤での洗浄及び注油も、ギア及びチェーンの寿命を延ばすのに効果があります。
- チェーン飛びが発生するようになった場合はギアとチェーンを交換してください。
- インナーケーブル内蔵式フレームでは、ワイヤー効率が悪くSISが働きにくいため、ご使用できません。
- ギアは必ず同じグループ刻印のセットで使用し、別グループ刻印のギア板を組み合わせて使用しないでください。
- アウターケーブルはハンドルを一杯に操舵しても余裕がある長さのものをご使用ください。また、ハンドルを一杯に操舵した時に変速レバーがフレームに接触しないことを合わせて確認してください。
- 変速ケーブルには専用グリスを使用しています。DURA-ACEグリスや他のグリスを使用すると変速機能が低下します。
- インナーケーブルとアウターケーブルの摺動部分がグリス潤滑された状態で使用してください。
- 円滑な操作のため、OT-SPシールドケーブル、ケーブルガイドをご使用ください。
- 変速に関係するすべてのレバー操作は、必ずフロントチェーンホイールを回しながら行ってください。
- オイルディスクブレーキのブレーキ液の種類によってはブレーキ液が変速レバーの樹脂部分に付着した場合、樹脂部分に亀裂が入ったり変色する可能性がありますので、ブレーキ液が付着しないようにしてください。
- シモノディスクブレーキに使用されている鉱物油は樹脂部分に付着した場合に亀裂、変色の恐れはありませんが、ゴミ等の付着を予防する為にアルコールで洗浄してください。
- シフティングレバーユニットの分解はしないでください。故障の原因となります。
- 通常の使用において自然に生じた摩耗および品質の劣化は保証いたしません。
- FH-M985 / M988の取扱い説明書もあわせてお読みください。
- 取扱い方法及びメンテナンスについて疑問のある方は、購入された販売店にご相談ください。

ご使用方法

SI-6T70A-001

リアドライブシステム

機能を十分に発揮させるために、次のラインナップによる使用を推奨いたします。

シリーズ	XTR
ラピッドファイヤー（シフティングレバー）	SL-M980-R / SL-M980-IR
アウターケーブル	OT-SP41 (SIS-SP41)
リアディレイラー	RD-M980
タイプ	SGS / GS
フリーハブ	FH-M985 / FH-M988
スピード	10 段
カセットスプロケット	CS-M980 / CS-M771-10
チェーン	CN-M980
ケーブルガイド	SM-SP17 / SM-BT17

この取扱い説明書は、ご購入された自転車に装着されているシモノ製自転車部品の取扱い方法を説明しています。ご購入された自転車およびシモノ製自転車部品以外に関するご質問はご購入先または自転車製造元へのお問い合わせをお勧めいたします。



*取扱い説明書は下記にてご覧いただけます。
<http://techdocs.shimano.com>

製品改良のため、仕様の一部を予告なく変更することがあります。

お客様相談窓口

☎ 0570-031961 Fax. 072-243-7847

株式会社 シモノ

〒590-8577 堺市南区杉松町3丁目77番地

仕様

リアディレイラー

モデルナンバー	RD-M980	
タイプ	SGS	GS
スピード	10 段	
トータルキャパシティ	41 T	35 T
リア最大ギア	36 T	36 T
リア最小ギア	11 T	11 T
フロント歯数差	18 T	18 T

カセットスプロケット歯数構成

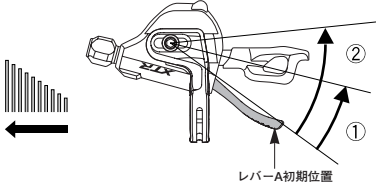
モデルナンバー	グループ名	スピード	歯数構成	
CS-M980	bJ	10 段	11, 13, 15, 17, 19, 21, 23, 26, 30, 34 T	
	bK	10 段	11, 13, 15, 17, 19, 21, 24, 28, 32, 36 T	
CS-M771-10	bL	10 段	11, 12, 14, 16, 18, 20, 22, 25, 28, 32 T	

変速操作方法

操作と同時に素早い解除ができるインスタントリリース機構。押しでも引いても1度の操作で2段変速が可能になった2-ウェイリリース、マルチリリース機構が備わったレバーです。レバーA、Bとも変速完了後、指を離すと必ずレバー初期位置に戻るようにになっています。レバー操作する時は必ずクランクを廻しながら行ってください。

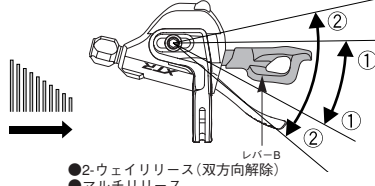
小ギアから大ギアへの変速（レバーA）

1段分だけ変速する場合は①の位置まで操作し、2段分変速する場合は②の位置まで操作するという具合に、変速したい段数分のストロークを操作します。最大2段分の一気変速まで可能です。



大ギアから小ギアへの変速（レバーB）

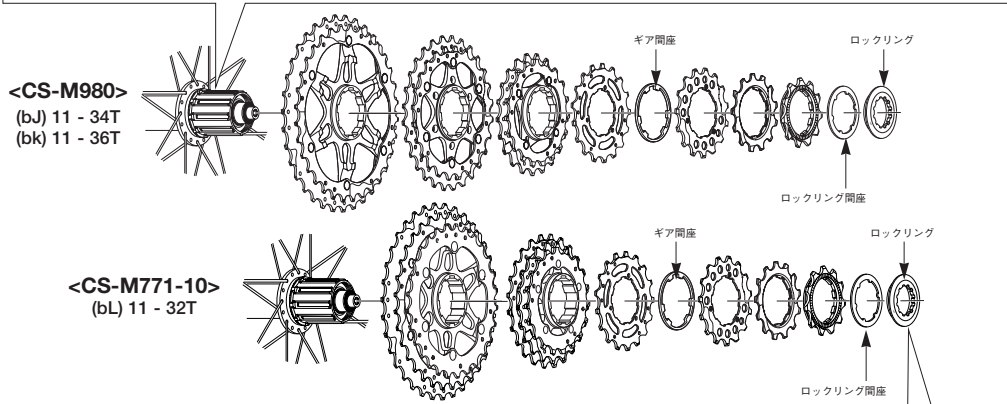
1段分だけ変速する場合は①の位置まで操作し、2段分変速する場合は②の位置まで操作するという具合に、変速したい段数分のストロークを操作します。最大2段分の一気変速まで可能です。



ギアの取付け

各ギアとも刻印のある面をトップ側にし、フリーホイール部のA部（溝幅が広いところ）と各ギアの幅広部を合わせてセットします。

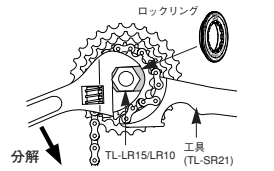
1ヶ所だけ溝幅が広い。幅広部



HGギアの取付けは専用工具（TL-LR15/LR10）でロックリングを締め付けます。

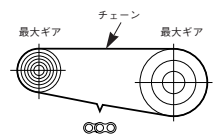
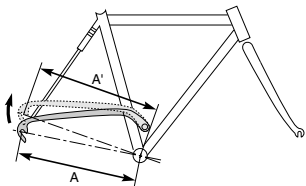
締め付けトルク：
30 - 50 N・m {300 - 500 kgf・cm}

HGギアの交換は専用工具（TL-LR15/LR10）とTL-SR21でロックリングを取り外します。



リアサスペンション付き自転車におけるチェーンの長さ

リアサスペンションが作動することにより、A寸法が変化します。このためチェーン長さが不足していると、駆動関係に異常な力が加わることがあります。チェーン長さは、リアサスペンションが作動してA寸法が最長に伸びたところで、チェーンを前後最大ギアに掛け、2リンク加えた長さに設定してください。リアサスペンションの作動量が大きい場合、フロント最小ギアとリアのトップ側ギアでチェーンの緩みが取れないことがあります。

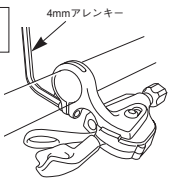


フロント、リア共に最大ギアにチェーンをかけた状態で2リンク加えてください。

シフティングレバーの取付け（SL-M980-R）

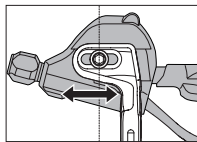
ハンドルグリップは最大外径がφ32mm以下のものをご使用ください。

締め付けトルク：
3 N・m {30 kgf・cm}



シフティングレバー位置は左右にスライド調整ができます。

締め付けトルク：
2.5 N・m {25 kgf・cm}



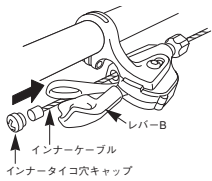
- ブレーキ操作と変速操作に支障をきたさない位置に取付けてください。
- ブレーキ操作に支障をきたす場合は組み合わせ使用しないでください。

ご注意：
推奨締め付けトルクにおいても、カーボンフレーム（ハンドル）の場合には、フレーム（ハンドル）への損傷ならびに固定不十分となる可能性があります。適切なトルク値に関しては、完成車メーカーまたはフレーム（ハンドル）メーカーでご確認ください。

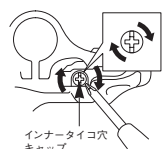
リアディレイラーの取付け及びSISの調整はRD-M980（リアディレイラー）の取扱い説明書をご覧ください。

インナーケーブルの取付けと固定

レバーBを9回以上操作して、トップの位置にセットします。インナータイコ穴キャップを取外し、ケーブルを取付けます。

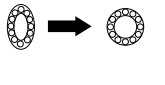


インナータイコ穴キャップを図のように止まるまでまわして、取付けてください。これ以上まわすと、キャップのネジみぞを破損します。

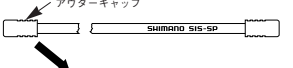


アウターケーブルの切断

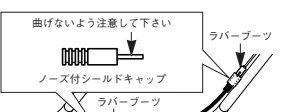
アウターケーブルを切断する場合には刻印の反対側を切断してください。切断後の端面は、外側を真円に戻し、穴の内側を整えてください。



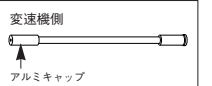
アウターケーブルキャップは、切断後も同一物を使用して下さい。



ノーズ付シールドキャップ及びラバーブーツはフレームのアウターストッパーに取付けて下さい。

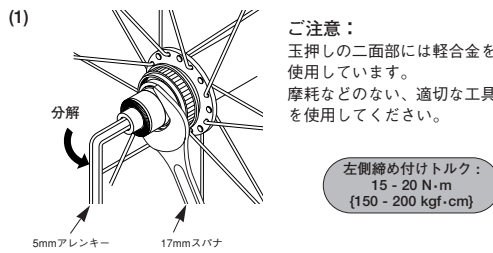


*リアサスペンション自転車等で、リアディレイラーの動きが激しい場合には、アルミキャップとの交換をお勧めします。アウターケーブルはアルミキャップがついた方を変速機側に使用してください。



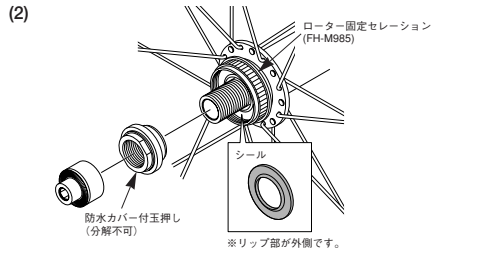
フリーホイール部の交換（FH-M985）

最初に図の手順でハブ軸を抜き取ってください。フリーホイール部側のダブルロック部は分解できません。



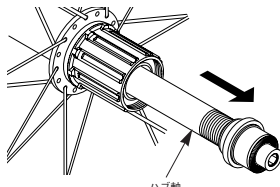
ご注意：
玉押しの二面部には軽合金を使用しています。摩耗などのない、適切な工具を使用してください。

左側締め付けトルク：
15 - 20 N・m
{150 - 200 kgf・cm}

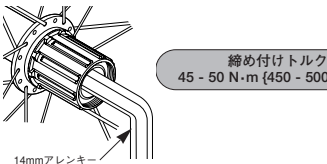
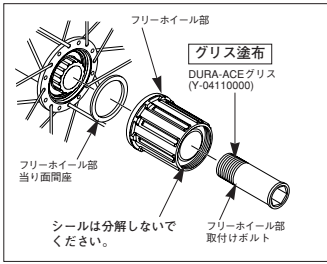


- ご注意：
●シール部の脱着は変形に十分気をつけて慎重に行ってください。再組立時にはシールの表裏を確認し、奥の当りまで組みつけてください。
●玉押しにかしめている防水カバーは分解しないでください。

(3)



(4) ハブ軸を抜き取った後、フリーホイール部内のフリーホイール部取付ボルトを取り外し、フリーホイール部を交換してください。



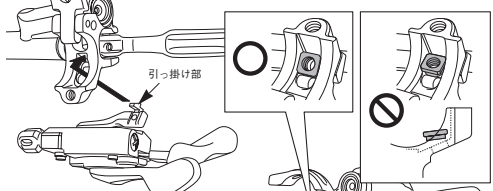
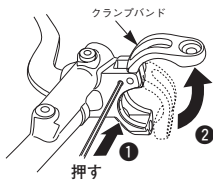
締め付けトルク：
45 - 50 N・m {450 - 500 kgf・cm}

ご注意：
フリーホイール部交換時はフリーホイール部取付けボルトもあわせて交換してください。ゆるみやかじりつきの原因になりますので、フリーホイール部取付けボルトのねじ部には必ずグリスを塗布してください。フリーホイール部の分解は、トラブルの原因となりますので行わないでください。

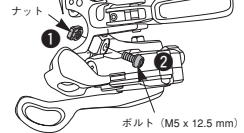
SL-M980-IとBL-M985/M988の取付け

シフティングレバー	SL-M980-I
ブレーキレバー	OK
BL-M985 / M988	OK
その他のブレーキレバーモデル	互換性なし

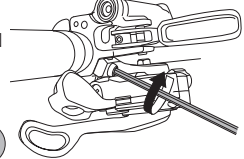
- 図のように2mmアレンキーでブレーキレバーのクランプバンドを開けます。
- シフティングレバーブラケットの引っ掛け部をブレーキレバーブラケットの穴に取付けて、専用のナットとボルトで仮止めし、ハンドルバーに取付けます。



ご注意：
ナットには裏表があります。反対に取付けるとハンドルバーに正しく固定できず、傷をつける恐れがあります。



- シフティングレバーを4mmアレンキーでブレーキレバーに固定します。



締め付けトルク：
2.4 - 4 N・m {24 - 40 kgf・cm}

- BR-M985（SI-8J70A）の取扱い説明書もあわせてお読みください。
- シフティングレバーユニットの交換と組立についてはフロントドライブシステムの取扱い説明書をご覧ください。